

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和2年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
基本目標(1) 学習情報の収集・発信										
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	引き続き、冊子を市内公共施設16か所に設置したほか、市ホームページで情報を公開した。掲載している情報が古くなっていることから、令和2年度に一斉更新を行った。	一斉更新により、より正確な生涯学習情報を集約することができた。	他課で作成しているサークル紹介冊子と情報を共有してほしい(手続きを簡略化してほしい)との声があった。	一斉更新作業により、サークル・団体情報を最新のものにすることができた。また、見づらかった市ホームページの改善も進めた。	A: 令和元年度より高い成果があった	他課で作成しているサークル紹介冊子を把握し、情報を共有できるかどうか検討する。
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	社会教育委員の会からの意見書「生涯学習情報の集約・発信事業に関する意見」を受け、市内の生涯学習に関する情報をコンパクトにまとめた「くにたちの生涯学習ガイド」を作成した。	公民館や図書館などでは独自に施設紹介パンフを作成していたが、市内の生涯学習に関する情報をまとめたものは久しく行っておらず、発信の手段が増えたという点で成果はあったと考えている。	生涯学習ガイドの図書館の紹介の部分にボランティア活動が載っているが、他の図書館事業を紹介したほうがよいのではないかと声があった。	「くにたちの生涯学習ガイド」は、現状では公共施設のみ配布しているが、他の施設などに置くことができるか検討していく必要がある。また、他の発信方法についても検討する必要がある。	A: 令和元年度より高い成果があった	意見書を踏まえ、引き続き多様な手段での情報発信手段を検討していく。
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。公民館講座の募集記事や講座参加者の声、講演要旨、公民館図書室の新着図書や講座参考図書などの情報提供を行った。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公民館が休館した際や自粛期間中も毎月発行し続けたことで、広く情報を発信し、周知することができた。	毎月、公民館講座や施設利用の情報、講座参加者の声を読むことができて、学習に役立っているとの声があった。	新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用上の注意点や会場の予約方法の変更点、オンライン講座の申込み方法や受講上の注意点、発行後に変更事項が生じた際に変更内容を掲載するホームページのQRコードの掲載を行った。	B: 令和元年度並みの成果であった	令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、公民館事業や公民館図書室についての情報提供を行っていきたい。
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	図書館広報誌「いんふおめーしょん」を12回発行、くにたちの教育の中の記事の掲載を4回、図書館HP、市HPによる広報を随時行った。	図書館で行っている事業の広報を通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	適切に行えた。なお、新型コロナウイルスによる図書館休館期間中は、図書館ホームページを使い、児童やYA世代に役立つリンク集や、館内の情報を掲載した。	B: 令和元年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
基本目標(2)学習機会の充実										
(2)-1	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもしろを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	各グループ参加者の運動不足による筋力低下を防ぐため、既存の100歳体操14グループの代表者に、指導者研修を実施した。1コース2回制2回実施 延べ参加人数32名	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、緊急事態宣言が发出され、外出自粛が続いたが、その結果、健康二次被害の問題も明らかとなり、逆に健康づくりの意識が高まった。コロナ禍であるため、より一層対策を行い、健康維持を心がけるため、各グループでは、100歳体操と一緒に新しい体操を取り入れるなどの意欲が感じられたグループが多かった。また、筋力アップの効果を上げるため、グループリーダー研修を開催した。	緊急事態宣言解除後は、保健師が各グループの活動場所を回り、感染対策を指導した。市民からは、「具体的に注意すべきことがわかり、安心した」との意見を頂いた。	コロナ禍においても、筋力トレーニングを行っている方々は、体力を維持されている。今後も引き続き普及推進していく。	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、向上を図る。
(2)-2	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、未実施	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)
(2)-3	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、未実施	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)
(2)-4	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	感染拡大防止策を講じながら活動を実施 実施回数: 7回 作成動画: 「子どもの人権オンブズマン」の紹介動画	子どもの主観に基づいたオンブズマン事務局の広報が作成できたとともに、子ども自身が制作を通じて市の事業へ参画し、また市政に対する理解を深める機会となった	参加した中高生からは、本事業を通じて、異学年・学校交流ができていて、また、市政について知る学習機会となっている、という声を受けている	新型コロナウイルス感染症の影響で例年よりも実施回数は少ない結果ではあったが、オンライン会議など新しい手法を導入し、学生とつながる機会、また学生の体験機会を継続させることができた	C: 令和元年度より低い成果だった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)
(2)-5	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、凧作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、未実施	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-6	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、松原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、未実施	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)
(2)-7	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	新型コロナウイルス感染症蔓延のため、開始時期を6月に遅らせた。実施回数: 39回 参加者数: 延4121名	事業実施に伴い、野外活動を通じた学習機会の充実に寄与した	例年よりも開催日数が減ってはいるが、多くの参加者があり、コロナ禍においても子どもたちが本来持っている力を引き出すことができる屋外の遊び場、居場所として機能した。	子どもたちが本来持っている力を引き出すことができる屋外の遊び場として健全育成に寄与しており、子どもたちの居場所としても地域に定着している。子どもたちの健全育成のために、今後も継続して行くべき事業である。	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施(状況によっては規模を縮小)
(2)-8	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、国立市障害者センターにサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分～15時30分、全47回(令和2年4月1日～令和3年3月31日)実施。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施することにより、ほぼサロンを中止することなく継続し、高次脳機能しょうがいを持つ方を中心に集いの場を提供することができた。	安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やリハビリテーションを学ぶ学生の見学も多く受け入れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施し、サロンを継続したことも、当事者より評価いただいた。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ZOOMを用いたりリモートサロンを実施、高次脳だよりを定期的に発行するなど、当事者とのつながりが切れぬように工夫をした。また、会場参加を希望する方が多くなり、3密に留意するなど感染症対策を行った上での実施継続となった。	B: 令和元年度並みの成果であった	基本的には従来通りの会場参加形式でのサロンを実施する。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ZOOMを用いたりリモートサロンの実施も検討する。
(2)-9	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	令和3年3月13日に家庭教育支援講座「10代のゆれる心のコーチング～幸せな自立のために～」を開催し、14名が参加した。	思春期の子を持つ保護者へアプローチする講座として、学習機会の充実に資することができた。	実施アンケートでは、「同じ悩みを持つ方と話ができ気持ちが楽になった」、「思春期を迎える前に知識を得ることができてよかった」との声があった。	今年度は新型コロナ対策のため、オンラインでの講座とし、講座内容を含め参加者からはおおむね好評であった。次年度以降も家庭教育に対する講座を実施していきたい。	A: 令和元年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症対策を取りながら実施していく。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和2年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和2年度の担当課評価	カ)令和3年度の実施方針
(2)-10	ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	コロナにより事業中止(開催なし)	基礎疾患等も配慮し、高齢者向けの事業を中止したため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	外出自粛要請が続く中、健康二次被害の懸念もある一方で、公共交通機関を利用するため中止とした。今後は、公共交通機関を使用しない市内でのウォーキング事業や、身体を動かす機会の提供等を検討していく必要性を感じている。	D:令和2年度未実施であった	コロナの感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供することに努める。
(2)-11	ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	【実績】 女性のライフデザイン講座(通年)や男性の料理講座(年1回)、親子講座(年6回)、シルバー学習室(通年)を実施した。	同じような課題を持つ人達と一緒に学ぶことで、目的意識を共有しながら学習していく機会を提供することができた。	コロナ禍で、人数制限や感染予防対策を行いながらの実施だったが、「この様な状況の中開催してくれてありがとう」という声や、「閉塞感のある中、毎週講座へ通うことが楽しかった」という声があった。	緊急事態宣言中の5月6月は実施できなかったため、日程を組み直しての開催で、講師との調整や参加者への周知等の対応に追われた。開催後はソーシャルディスタンスを確保できる座席の配置と消毒、参加者への呼びかけ等の感染対策を徹底実施した。	B:令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-12	ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者とないが共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】 しょうがいしゃ青年教室(74回)、年間交流行事(7回)、青年講座(3回)等を実施。	しょうがいしゃも年間交流行事の実行委員を務めるなど活動に積極的に関わり、しょうがいの有無を超えてともに学び合い楽しみあう機会を提供することができた。	活動が再開できた時には、「またみんなと会うことができ本当にうれしい」という当事者や「公民館があるからこそ地域とつながる機会を得られる」という保護者の声をいただいた。	緊急事態宣言中の5月～6月等は実施できず、その都度日程調整や参加者への対応が難しかった。コロナ禍のなか、地域や人とつながる機会が極端に減ってしまうしょうがいしゃも多く、ボランティアの青年と協力して通信の作成やYouTube配信を行うなどの工夫を行った。	B:令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-13	ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	【実績】 中高生のための学習支援事業(30回)、NHK学園共催講座(10回)等を実施。	様々な背景を抱える中高生・若者に対して学習の個別支援や、彼らを支える人材を育む機会を提供することができた。	学習支援に参加する中高生からは、「学習習慣が身につくようになった」「大学生が親身になってくれて嬉しい」などの声があった。	6月から再開したが、当初は大学生のボランティアが帰省や大学からの制限で参加が少ない等、平常通りの開催が難しかった。	B:令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-14	ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】生活のための日本語講座(220回)、日本語教育入門(8回)、日本語教育入門前年度振替分(2回)、にほんごサロン(13回)	地域に暮らす外国人への生活のための日本語学習の機会、地域で日本語支援をしたい人のための学習の機会を提供することができた。	日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月及び6月初旬は実施できなかったため、講師との調整や参加者への周知等の対応に追われた。開催後はソーシャルディスタンスを確保できる座席の配置と消毒、参加者への呼びかけ等の感染対策を徹底し実施した。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-15	ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中学生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数が15.7冊だった。(15歳未満児童数8,633人、児童書貸出冊数135,373冊)	児童が書籍を読むことで、家庭教育等の支援や、様々な考えに触れ、知識を吸収することを通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和元年度における15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数の17.9冊(15歳未満児童数8,700人、児童書貸出冊数155,435冊)と比較すると、令和2年度は実績が下がった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止から4～5月にかけて休館していたことが原因である。	C: 令和元年度より低い成果だった	新型コロナウイルスの影響から実績が下がったものの、今後はこのような状況でも、実績を維持できるような工夫を行いたい。
(2)-16	ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚障害者向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	障害者サービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が137.8冊だった。(障害者サービス利用登録者数12人、音訳、点訳資料貸出冊数1,653冊)	しょうがいしゃが書籍を読むことで、教育、文化スポーツなどの様々な機会に親しむことができるため、本重点施策の推進に貢献できた。	しょうがい等があっても図書の利用ができることを喜ぶ声や継続を望む声があった。	令和元年度における障害者サービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数の140.2冊(障害者サービス利用登録者数13人、音訳、点訳資料貸出冊数1,822冊)と比較すると、令和2年度は実績が下がった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止から4～5月にかけて休館していたことが関係していると考えられる。	C: 令和元年度より低い成果だった	新型コロナウイルスの影響から実績が下がったものの、今後はこのような状況でも、実績を維持できるような工夫を行いたい。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和2年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和2年度の担当課評価	カ)令和3年度の実施方針
(2)-17	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協調の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	未定
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康増進課	保健師及び栄養士等が、関係機関と連携し、下記のとおり、実施した。 ○食育講座(地場野菜と栄養) 小学生対象 参加延べ人数59名 ○心の健康づくり 小学生対象 「SOSの出し方に関する授業」 参加者490名(15クラス) ○薬物乱用防止推進活動 中学生対象 ポスター応募数18点 標語応募数377点 ○GO!5!健康大作戦 18~64歳でBMI25以上の方 参加者13名 ○血管長持ち大作戦 40~74歳へのアプローチ 参加者5名 ○健康ティータイム 1回開催	コロナ禍の影響により、来所型の健康相談等は参加者が少なかったが、学校での健康教育の回数は増えている。市民からの依頼があり、リモートで健康予防・新型コロナ感染症予防について事業を行った。	同左	健康診査の受診率が下がる中、健康二次被害の対策の工夫が必要である。	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、向上を図る。
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	毎週開催している「くにたちオリジナル体操のつどい」の中心的存在である「健康づくり推進員」を募集し、活動を行った。 ○推進員養成講座 2回実施 延べ参加人数9名 ○推進員定例会・現任研修 3回実施 延べ参加人数64名 ○オリジナル体操のつどい 毎週火曜日午前10時30分~ 延べ参加人数1,738名	推進員の活動は、各種イベントが中止になり減少したが、公園で実施しているオリジナル体操の参加者が大幅に増加した。コロナ禍であり、広くオリジナル体操を広めるため、メディア協力なども行った。	感染防止対策をとり、皆と運動・交流の機会を持てることに喜びと生きがいを感じるとの声が多数あり。	フレイル予防を推進し、健康づくりの向上のために活動をひき続き支援していくことが重要。	A: 令和元年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、継続していく。
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	東京五輪開催に伴う事業への影響に鑑み、当初より実施予定なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	これまでの事業評価を行い、今後の方向性について設計

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	本事業について、中高生による実行委員会を発足、実行委員主体で事業を企画した 事業実施回数:2回(内、実行委員企画は1回) 参加者数:延23名	新規に中高生による実行委員会を立ち上げたことにより、行政主導でない中高生主体の事業運営につながる足掛かりを得た	実行委員からは、活動を通じて大人(行政職員)と折衝し、企画立案することを学ぶことができる、との声を聞いている	新型コロナウイルス感染症の影響で例年よりも実施回数は少ないが、実行委員会を発足したことでより柔軟に企画を立案するに至った。また、オンライン会議など新しい手法を導入したことで、学生とつながる機会、また学生の体験機会を継続させることができた	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施(状況によっては規模を縮小)
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	感染拡大防止策を講じながらわくわく子どもフェスタを実施 実施日: 令和3年2月21日(日) 参加者数:168名	市内団体と協働し、感染症対策を講じて実施することができ、市民への機会提供を行うことができた	コロナ禍で子どもたちの体験機会が少ない中で実施できたことから、参加者からは喜ばれた	感染症対策のため、人数制限等せざるを得ず、参加できない市民もいたが、参加できた市民にとってはとても良い機会提供となった	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施予定(状況によっては規模を縮小)
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	田植え:新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小学生は参加せず、農業委員による機械植えを行った。 稲刈り:実施。参加者8校532名 ゲストスピーカー派遣:3回実施 調理実習訪問:1回実施	教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ、小学生へ貴重な体験、学習を提供できた。	地元産のお米や地域への関心が高まった。	「田植え」は中止となったが、その他の事業は例年通り問題なく実施することができた。	B: 令和元年度並みの成果であった	各種団体と協議・連携し、新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、全ての事業を実施する。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	「スポーツ子どもの日」はコロナにより事業中止したが、代替事業として東京女子体育大学と協力した「トラロンリンにチャレンジしよう」を実施。(参加人数31人)	スポーツ子どもの日は中止となったが、会場調整等を行い、代替事業として実施できたことはコロナ禍にあっても計画の推進に貢献できた。	参加者からは、外出自粛要請が続く中で、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	コロナ禍で例年より参加定員を減し開催。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供を今後も継続していく必要あり。	C: 令和元年度より低い成果だった	コロナの感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供することに努める。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	会場を東京女子体育大学から谷保第3公園グラウンドに変更し開催。(参加人数26人)	例年、大学施設を使用していた開催であったが、コロナ禍で大学側の入校制限がある中で中止とすることも考えられたが、代替場所で開催することを大学側と調整し、例年並みに開催することができた。	参加者からは、外出自粛要請が続く中で、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	コロナ禍で例年より参加定員を減し開催。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供を今後も継続していく必要あり。	C: 令和元年度より低い成果だった	コロナの感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供することに努める。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	卓球教室は、コロナ禍における開催に関して関係者と協議し、事業中止（開催なし）。一方、しょうがいの有無に関わらずだれでも参加できるポッチャ体験教室を一部開催。 ・ポッチャくにたちカップ（中止） ・ポッチャ体験教室6回開催（延参加人数65人）	基礎疾患等も配慮し、しょうがいしゃ向けの事業のほとんどを中止したため、計画の推進に貢献できなかった。	東京都多摩障害者スポーツセンターの利用制限がかかっている中で、しょうがいしゃが思うように身体を動かすことができていないため、感染対策をとりつつ、出来る限り開催してほしいとの意見があった。	外出自粛要請が続く中、健康二次被害の懸念もある一方で、基礎疾患等にも配慮し多くの事業が中止せざるを得なかった。自宅や公園等で身体を動かす動画等の配信を財団とともに検討していくことも必要である。	C: 令和元年度より低い成果だった	コロナの感染状況により開催を判断。安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供することに努める。
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切にす」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント（講演会、映画上映会、パネル展等）を行う。	市長室	12月17日に、トークセッション「一人ひとりの「らしさ」を大切にしたいあえるまちへ～SOGIハ・アウトィングのない社会とは～」を開催した。参加者31人。	パートナーシップ制度導入に向けての機運づくりとして、市民が人権・多様性について考える機会を創出できた。	禁止するだけではなく誰もが尊重される社会が大切と感じるという意見や、理解と配慮のせめぎあいの中でコミュニケーションが難しく感じるという意見があった。	パートナーシップ制度導入に向けてテーマを設定し、高い関心を持った市民の参加が多かった。人権や多様性についてあまり考えたことがないという市民の参加も促すことが必要であると感じた。	B: 令和元年度並みの成果であった	法務省及び全国人権擁護委員連合会が定める人権週間に合わせて、市民とともに人権について考えていけるようなイベントを開催する。
(2)-28	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント（講演会、映画上映会、パネル展等）をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	「くにたち平和の日」イベントを令和2年6月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	未実施のため、なし	未実施のため、なし	市として、原則6/30まで公共施設の閉館、イベント中止の方針が示されたため、関係者と協議のうえ、中止とした。	D: 令和2年度未実施であった	・令和3年度「くにたち平和の日」イベントについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を徹底したうえで6月21日に、新たにオープンした旧国立駅舎において「くにたち平和の日展」を開催し、参加者の拡大と、平和意識の一層の啓発を図った。 ・くにたち平和推進週間パネル展については、「一橋いしぶみの会」及び「一橋新聞部」の協力を得て、6月8日から17日の期間開催し、より多くの人に戦争の歴史を知ってもらい、平和について考える機会を創出した。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-29	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	①実行委員会と共に、原爆に関する一行のコトバを広く募集し、選定作品を市内公共施設等で展示した(応募総数1,586作品)。またコトバの募集期間(7月1日～15日)と展示期間(8月1日～19日)に広島市立基町高等学校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」を展示した。 ②1月29日に文化の多様性をテーマとする事業「一冊対談集」を国文学研究資料館、多摩信用金庫、くにたち文化・スポーツ振興財団と共催で実施した。(参加者88名)	①原爆の日について考えることを通じて、市民の平和意識を醸成することができた。 ②広く市民が性別・年齢・しよがい・民族等の垣根を越えた文化の多様性について考える機会となった。	①市民の実行委員発案による展示方法の工夫や全国への発信等、地道な取り組みが過去最多の応募数につながった。 ②「講師の発想には驚いた」「多様な考え方に気付かされた」「久しぶりに感性がリフレッシュされるような機会に触れた」といった声があった。	①コトバが全国から寄せられ応募数が過去最多だったことや、中国新聞に取り上げられたことで、認知度がより高まったと実感した。 ②近世の古典籍と最先端のテクノロジーを融合させたトークが参加者の関心を誘い、多様な日本文化の理解につながった。	A: 令和元年度より高い成果があった	①引き続き市民、実行委員会と共同で実施する。 ②アイヌへの差別と思われる事案が市内で発生したのを機に、市民と共同で5月30日に「人権学習会」を開催。講演会とともにアイヌ文化啓発のための展示を行った。
(2)-30	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	12月17日に、トークセッション「一人ひとりの「らしさ」を大切にしたいあえるまちへ～SOGIハラ・アウトティングのない社会とは～」を開催した。参加者31人。	パートナーシップ制度導入に向けての機運づくりとして、市民が人権・多様性について考える機会を創出できた。	禁止するだけではなく誰もが尊重される社会が大切と感じるという意見や、理解と配慮のせめぎあいの中でコミュニケーションが難しく感じるという意見があった。	パートナーシップ制度導入に向けてテーマを設定し、高い関心を持った市民の参加が多かった。人権や多様性についてあまり考えたことがないという市民の参加も促すことが必要であると感じた。	B: 令和元年度並みの成果であった	男女共同参画週間に合わせて6月25日～6月29日に旧国立駅舎にて、くにたち男女平等参画ステーション・パラソルが主体となり、一橋大学の学生団体とともにパネル展や講座を開催し、多くの市民が多様な性について考える機会を創出した。
(2)-31	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	9回の出前講座を開催	昨年度に比較して出前講座の開催回数が増えた。	引き続き、市民や団体のニーズに沿った講座を開催していく。	感染防止のために、WEB会議を用いた出前講座を開催した。	A: 令和元年度より高い成果があった	出前講座については、引き続き感染症対策に留意して開催する。
(2)-32	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。	未実施のため評価できない。	感染防止に配慮したうえで、防災意識向上のための訓練等の機会を確保していく。	新型コロナウイルス感染防止の観点から、市民と協同した訓練の開催が困難であった。	D: 令和2年度未実施であった	感染症対策に配慮したうえで、防災訓練を開催していく。
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のウォーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康増進課	楽しく歩いて健康づくりをすすめるため、市内公共施設にて、全9コースの地図の配布を行った。 配布枚数14,130枚	コロナ禍において、健康ウォーキングマップの活用が図られた。また、市報の1面にも掲載され、ウォーキングの普及がより一層図られた。	同左	同左	A: 令和元年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、継続していく。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度事業は中止とした。	未実施のため、なし	未実施のため、なし	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	次回実施は令和4年度の予定。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和2年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和2年度の担当課評価	カ)令和3年度の実施方針
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、施設見学会は行わなかった。	事業を継続したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	過去に、ごみに対する意識が変わったとの声があった。	見学先が受け入れをしていなかったため、実施できなかったことはやむを得なかったと思われる。	B:令和元年度並みの成果であった	継続して実施しつつ、インターネット上でも学習できるよう動画の作成なども検討する。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、モニター講習会を規模を縮小して6回行い、43名が参加した。	継続して実施したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	ごみが減った、ごみに対する意識が変わったとの声があった。	規模は縮小しつつ、継続して実施したが、関心がある市民にはある程度普及したと思われる。	B:令和元年度並みの成果であった	継続して実施しつつ、「ミニ・キエーロ」に関心がない市民にも関心を持ってもらえるよう工夫する。
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、前期の春夏野菜づくり体験については、公募を中止したが、後半の秋冬野菜づくり体験については、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえ、体験を実施した。	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験した。また、地元農家と交流することで地場野菜や地域の縁に愛着を持ってもらうことができた。	講師からの直接指導を受けることができるメリットと、自らが栽培することの喜びのお声があった。	講師からの熱心な指導と参加者の習得意識の高さがうまくなりあうことができた	B:令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、事業を実施する。
(2)-38	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業はすべて中止した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業をすべて中止したが、次年度は本事業を補完する事業を検討していく。	-	市の指針のとおり、飲食を伴う事業は難しいことから、動画配信等の対応で本事業を補完していく。	D:令和2年度未実施であった	当面の間、飲食を伴う事業は中止とする。
(2)-39	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策した。	自然学習の講師と田園風景を眺めつつ、用水に生息する生物を観察しながらお米農家を訪問した。また、米づくりの概要や近年の異常気象による農作物、農業に与える影響などをお話いただき、お米への愛着と田畑を守る環境についても意識を高めた。	地元産のお米や地域への関心が高まった、水路に沿ってそこに生息する生物の見識が深まったなどのご意見。	募集に対する応募があまり奮わなかったなかでは、実施方法や募集期間を検討しながら継続実施していく。	B:令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、事業を実施する。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-40	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	全市立小・中学校において、セーフティ教室は実施したが、学校公開及び道徳授業地区公開講座はコロナ禍で中止とした。	実施したセーフティ教室については、令和元年度並みであった。	コロナ禍で、学校公開を中止したため、学校や子供たちの様子が分からないとの声をいただいた。	コロナ禍でも、HPや学校だより、オンライン等を活用して、学校や子供たちの様子を情報発信できるようにしていく必要がある。	B: 令和元年度並みの成果であった	コロナ禍でも、HPや学校だより、オンライン等を活用して、学校や子供たちの様子を情報発信していく。
(2)-41	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 平和(2回)、人権(5回)、近現代史(2回)、環境(1回)、多文化共生(1回)等現代社会の課題を考える講座を実施。	地域の歴史や美醜にまつわる人権など、身近な切り口から他人事ではなく自分事として、普遍的な課題や社会的課題を捉える機会を提供することができた。	近現代講座では「講座を心待ちにしていた」、平和講座では「知らなかった地域の戦争の歴史がわかり、このような講座をまた開催してほしい」等、講座の意義を感じる声が多く聞かれた。	昨年度中止になった近現代史講座を再開する等オンラインも併用・活用し、工夫しながら実施した。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-42	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 一橋大学院生講座(2回)・連携講座(4回)、地域史講座(2回)、地域防災講座(1回)等、地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。	地域のサークルや大学と連携しながら、公民館だけではできないような学習機会を提供できた。	地域史講座では、「新選組ゆかりの地」を地域のサークルの案内で歩き、「身近な地域の中に新選組のルーツを感じる事ができた」と大変好評だった。	一橋大学連携講座は、オンライン受講と公民館受講併用で実施した。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-43	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 図書室のつどい(10回)、ブッククラブ(8回)、映画会(4回)、古典講座(5回)、哲学講座(5回)、文化芸術(3回)等を実施。	様々なジャンルの作品を取り扱うことで、現代社会の問題や文化について考える機会を提供できた。	文化芸術講座では、「中央線沿線ゆかりの文学者たちと作品」の講座を実施した。「国立市について初めて知ることも多く、市の魅力を改めて確認できた」との声が多く聞かれた。	図書室のつどいや映画会など例年は申込不要にしていた講座もコロナ対策のため人数制限を設け事前申込制とした。映画会も途中休憩を入れて喚起を行うなどの感染対策を徹底した。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-44	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】 身体表現ワークショップ(6回)、銅版画(4回)等を実施。	身体を動かす、絵を描く等様々な切り口から表現と創作を楽しむ機会を提供することができた。	身体表現では「色々な動きで自己表現ができて楽しい」、銅版画では「仲間づくりもしながら創作もできて良かった」などの声が聞かれた。	公民館閉館のため、開催時期をずらす等工夫をして実施した。そのため、身体表現では例年発表の場とされているしょうがいしゃ青年教室のクリスマス会で発表ができなくなる等、参加者の期待に応えられないことが悔やまれた。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-45	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を知りやすくなるため開室している。今後も図書室業務の機能充実および推進を図る。	公民館	【実績】 公民館主催講座に関連する書籍の受入、地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	公民館で実施する市民が参加できる講座や催し物のテーマ・内容に関連した本を優先して収集・紹介し、市民の学びを深めることにつながっている。	講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができる、などの声があった。	緊急事態宣言のため、公民館休館中は図書の貸出等を行うことができなかったが、開館後は座席の配置を変更したり、除菌のため本が返却されてから書架へ戻すまで一定期間待機期間を設けるなどの対応を行い、感染防止に努めながら市民の本棚としての役割を果たした。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-46	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	講演会・講座・勉強会を50回開催した。	講演会等を行うことで、市民に対して学習等の機会を提供したことで、本重点施策の推進に貢献できた。	概ね良い評価を得ている。	令和元年度における講演会等の回数の131回と比較すると、令和2年度は実績が下がった。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止から対面での講演会等を行わなかったこと等が原因である。	C: 令和元年度より低い成果だった	対面で行う必要がある講演会等があることを考えると、当面は以前のような頻度で行うことは難しいと考える。しかしながら、本重点施策目標に貢献するため、オンラインを使用した講演会等の実施を積極的に考えていきたい。
(2)-47	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾くにたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	令和2年度は7件の利用があり、延べ80人が参加した。 講座の新設: 1件	さまざまな講座メニューを用意することで、市民が行政課題を身近に考えていただくきっかけとなっている。	コロナ禍の中でも講座を実施いただき、感謝するとの声があった。	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度に比べると件数、参加者数ともに減少した。講座メニューの新設や、わかりやすい名称への変更を一部の講座で行った。	C: 令和元年度より低い成果だった	感染症対策を取る中で、市民を引き付けられるような講座メニューの新設等を検討する。
(2)-48	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	令和元年度に延期した財団主催による職員向けアートマネジメントセミナーを1回開催したが、残りの2回は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により延期となった。	セミナーは行政課題をアートでデザインするというテーマで実施し、アートの視点を日常業務に取り入れるきっかけにつながった。	市民向けにもアートマネジメントセミナーを開催してはどうかとの声があった。	令和2年度は計3回のセミナーを予定していたが、残念ながら1回の開催にとどまった。コロナ禍の影響が続いていることから、開催方式などを模索する必要がある。	A: 令和元年度より高い成果があった	財団やアーツカウンシル東京とも連携しながら、国立市民が文化芸術を身近に感じられるような取り組みを進めていく。
(2)-49	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援 〇各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者による講話を、市内公共施設で計11回、市内外の団体・学校・市民グループなどによる派遣依頼を受けて計19回、および市内の小中学校8校で実施した。	講話を通じて、特に若い世代に被爆者や東京大空襲体験者の体験や平和への願い、伝承者の想いを伝えることができた。	定期講話の参加者から、「若い方が参加して嬉しかった」「人と人とのつながりの大切さや意味を感じることができた」「更なるPR強化とオンラインによる開催を期待する」「資料等を通して得る情報とは違いより身近に感じることができた」といった声があった。	新たに国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザにおいて講話を実施したこと、より多くの方に本取り組みを周知し、参加いただくことができた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出自粛等が要請されるなか、オンライン講話等新たな取り組みについても検討していく必要がある。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザも会場に含め、講話を実施していく。オンライン講話については、諸条件の整理等を含め実現に向けて検討していく予定。
(2)-50	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援 〇各種団体との連携・協働	「エコール辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず	実施していないため評価できない。	エコール辻も当事業に非常に協力的であり、市としても今後もエコール辻と協働し事業を進めていきたいと感じた。	エコール辻との貴重な協働機会であり、また、地産地消やエンカール消費を啓発する意味合いも含めたイベントでもあるため、開催できなかったことは残念であったと感じている。	D: 令和2年度未実施であった	実施したい意向はあるが、食物を提供するイベントのため、感染症の状況等を鑑み開催の判断は慎重に行う必要があると考える。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず	実施していないため評価できない。	施策評価委員会委員からは、市民が参加しやすいテーマの講演会を主導で実施してはどうかとの意見があった。	未実施のため、なし	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、実施を検討する。
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	令和3年2月19日に「くらしのヒントを学ぶ～日常に取り入れる“備蓄”～」をテーマに消費者団体連絡会との共催で講演会を実施。新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、参加を事前予約制に、定員を通常の半以下とした。	消費者団体連絡会と協力し、テーマも市民からの関心の高いもののできたため、一定の評価ができる。	今回のテーマであった防災や備蓄に関して、市民からの関心は非常に高いものと感じた。	令和元年度が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったことから、まず、開催できたことが良かったと感じている。また、参加者からの反応は概ね良く、実施した効果はあったと感じている。	A: 令和元年度より高い成果があった	令和2年度と同様、消費者団体連絡会と共催で講演会を実施する方針である。テーマは未定。
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディバスター	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	実施していないため評価できない。	国際交流団体からは、コロナ禍でも何らかの形でイベントを実施できればとの声があった。	バス移動であることや大使館側の受け入れ態勢を鑑み、実施は困難だった。市内青少年の国際理解を深めてもらう機会が提供できなかったことは遺憾である。	D: 令和2年度未実施であった	新型コロナウイルス感染の状況を見ながら、例年通り3月に実施する方向。
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくにたち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりを強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	実施していないため評価できない。	例年参加している方からの開催を望む声もあり、少しずつ春のイベントとして市民だけでなく市外の方にも定着してきたと感じる。	開催までの準備に約半年間かかることから、前年から準備を始めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大学通りでの大規模イベントであるLINKくにたちは開催できなかった。	D: 令和2年度未実施であった	例年5月に開催していたが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に続き5月に開催できなかった。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	大学通り緑地帯及び市内公園への花植えを、市民ボランティア、公園協力会等の協力を得ながら、年二回(延べ46か所)実施した。例年実施していたイベント(桜の接ぎ木体験、どんぐり試食等)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種検討会でのMTGは実施しなかったほか、各種イベントは中止とした。一方で、大学通り緑地帯での定期的な維持管理作業や、年二回の花植え作業については、市民ボランティアと協働し、感染対策を徹底しながら実施した。	大学通り緑地帯や市内公園への花植えについては、道行く市民の方々より、好意的なご意見を多々いただいた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベント等を中止したため、令和元年度よりも事業規模を縮小した結果となったが、大学通り緑地帯での定期的な作業をはじめ、市民ボランティアと協働し、感染拡大を防止しながら活動を展開できたことは、評価できると考える。	C: 令和元年度より低い成果だった	引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大勢が集まるようなイベントは中止する予定ではあるが、感染症の状況等を鑑みながら、徐々に再開していきたいと考えている。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	くにたち緑のサポーター養成塾(アドバンスコース)を実施し、8名が受講した。例年実施していた、多くの受講生を募るくにたち緑のサポーター養成塾(ベーシックコース)については、隔年で実施。	くにたち緑のサポーター養成塾(ベーシックコース)を受講した方向けのスキルアップを目的として実施した。	参加者から大変好評をいただいた。特に、樹木と土壌の関係について触れる内容について、評価が高かった。	大学通り緑地帯の桜を対象に、樹勢と土壌、根の役割について、樹木医による講座を実施した。新型コロナウイルス感染拡大のため、開催について慎重に検討し、屋外での実施であることと、受講予定者が少数であることが見込まれていたため、感染対策を徹底することで、実施することとした。	B: 令和元年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症の状況によるが、規模を縮小しつつ、過年度実施内容を踏襲し、実施予定としている。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	・NHK学園との協力事業については、緊急事態宣言期間中等を除き、随時行っていた。 ・一橋大学サークルの協力による事業は、中高生向け図書の展示企画を1回行った。	企画等を他団体と行うことで市役所以外の価値観、視点を取り入れることができるため、市民の学習機会のさらなる充実を図ることができた。	特になし。	概ね適切に行えた。一方、新型コロナウイルスの影響等で国立本店との協働が行えなかった。	B: 令和元年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。また、国立本店との協働も、今後行っていきたい。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和2年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和2年度の担当課評価	カ)令和3年度の実施方針
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実										
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	【実績】参加団体8団体(新規1団体)、参加者や来場者合わせて約1,000名程度。	令和元年度に比べて、コロナの影響により参加団体、参加者・来場者数は7割近く減少した。近隣自治体で軒並み文化祭を中止するなかで実施することで市民の文化活動の機会を確保できた。	コロナ禍でも諦めず、感染症対策を工夫して実施できたのは団体としてもよい経験になった。文化祭が文化活動を継続するモチベーションになっていると、文化祭を必要とする声が多くあった。	公民館や各催し物ごとのガイドラインを参考にして文化祭としてのガイドラインを作成するなど実施にむけた環境を整え、参加団体の方々と試行錯誤して実施した。	C: 令和元年度より低い成果だった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。	実施していないため評価できない。	開催を望む声もあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による開催中止ということで、理解してもらった。	開催までの準備に時間がかかる上に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と対応策を練る時間がなかったことから大規模イベントであるさくらフェスティバル・LINKくにたち・市民まつりは開催を断念せざるを得なかった。	D: 令和2年度未実施であった	さくらフェスティバルについては、4月に初のオンライン開催をした。LINKくにたちについては、5月の大学通りでの開催を目指したがコロナ禍で開催できなかった。市民まつりについては、現状では通常開始を目指して準備をしている。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲(2)-49	再掲(2)-49	再掲(2)-49	再掲(2)-49	再掲	再掲(2)-49
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりをを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康増進課	再掲(2)-1	再掲(2)-1	再掲(2)-1	再掲(2)-1	再掲	再掲(2)-1
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康増進課	再掲(2)-19	再掲(2)-19	再掲(2)-19	再掲(2)-19	再掲	再掲(2)-19

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	10月から2月にかけて23回実施。 受講者11名	地域の中で高齢者が生活支援の担い手や地域活動等の中心的な役割を担う活動につながっている。	高齢者を取り巻く諸課題について広い視点から学習できた。これからどの様に活動していくとよいか考える手だてが出来た。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため感染症予防に努めて実施。開催回数変更やリモートによる講座も一部実施した。受講生の満足度は概ね高いものとなっている。	B: 令和元年度並みの成果であった	令和2年度同様に継続して実施。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲 (2)-55	再掲 (2)-55	再掲 (2)-55	再掲 (2)-55	再掲	再掲 (2)-55
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲 (2)-56	再掲 (2)-56	再掲 (2)-56	再掲 (2)-56	再掲	再掲 (2)-56
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	会場調整会をコロナ対策として、公民館利用者連絡会の協力を得て、規模を縮小しながらも5月を除く1回実施した。	公民館利用者連絡会の活動の場と、会場調整会に参加した団体同士の交流の場となった。	団体が実際に会って調整を行うことで、30分程度の単位の調整もでき、団体同士の対話も生まれていい制度だとの声が聞かれる。	例年、会場調整会には毎月申込団体全て(100人程度)がホールに集まるが、コロナ対策として密を避けるため、会場予約に重なりのため、会場予約のみ、1週間前に掲示(館内3か所及びホームページ)して、会場調整会に参観する方法に変更して実施した。	B: 令和元年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	ボランティア活動回数が308回だった。	ボランティア活動を通じて、市民が音訳等、読み聞かせ等の学習の成果を活かせるため、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和元年度におけるボランティア活動回数の320回と比較すると、数値としては回数下がっているが、新型コロナウイルスの影響を鑑みてもこの程度の減少で収まっているため、誤差の範囲であると考えられる。	B: 令和元年度並みの成果であった	今までどおり実施していきたい。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
基本目標(4) 施設や場の拡充、職員の専門性の確保										
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	【実績】 サークル利用が年間で3,091回。備品は、印刷機342回、液晶モニター49回、プロジェクター76回、マイクセット110回等貸出しを行った。	市民サークルの活動に役立っている。	新型コロナウイルス感染症対策の影響で活動場所が少なくなっている中、サークル活動をする上で貴重な施設として感謝の声が多く聞かれる。	年度初めの緊急事態宣言により休館となった際は「サークル活動の場がなくなるので閉館してほしい」と多くの問い合わせがあった。開館にあたっては、会場の申込みを平等に行うための工夫と各会場の定員数を減らすなどの感染対策の準備を行った。その後の緊急事態宣言後も休館することなく、利用者に感染対策のご協力いただきながら開館している。	C: 令和元年度より低い成果だった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	職員課	地域住民の主体的学習の促進に携わる立場である図書館職員1名に対して、東京都市町村職員研修所の図書館科に派遣した。	研修を受講した職員のスキルアップにつながったことで、市民が学習する際の手助けをより深めることができたと思う。	研修を受講した職員より、研修を受講したことで、市民(利用者)からの問い合わせに答えられるようになったこと、他市の取組を学ぶことで、自市の図書館業務に活かすことが出来たとの感想があった。	現状、隔年実施で1名程度を派遣する研修のみであるため、目的・内容を満たす研修を実施できないが、引き続き検討していく。	A: 令和元年度より高い成果があった	令和3年度は、図書館科の研修は実施予定がない。内部の研修において、目的・内容を満たすことのできる研修の実施についても検討していきたい。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	生涯学習課	具体的な研修は未実施である。なお、社会教育委員の会から、「職員の専門性の確保に関する事業」について、令和2年9月に意見書を提出いただいた。	生涯学習・社会教育に関する職員の専門性の確保に資する意見書を提出いただくことができた。	特になし。	社会教育委員の会から意見書が提出されたが、令和2年度は関係部署での情報共有にとどまり、具体的な研修内容の検討はほとんどできなかった。	B: 令和元年度並みの成果であった	社会教育委員の会から提出された意見書を受け、職員の専門性の確保に資する研修を実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	公民館	【実績】 前年度に引き続き東京都公民館連絡協議会に加盟し、年30回程度の部会へ参加した。令和2年度は企画委員としても、例年2月頃開催される東京都公民館研究大会の企画に携わり、一般市民への広報を行った。	他市との貴重な情報交換の場となった。	コロナ対策のため東京都公民館研究大会は、動画配信となったが、長澤成次さんによる「コロナ時代に向きあう公民館」の基調講演等の視聴を通して、現代の社会教育が抱える課題や、地域住民の学習活動を支援する上で必要な知識や技能が身についたという声をいただいた。	B: 令和元年度並みの成果であった	令和3年度は、職員部会が会長市となる。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施していく。	
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	図書館	能力育成、情報交換等の研修に累計5人が参加した。	能力育成、情報交換の研修を通じ、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和元年度における能力育成、情報交換等の研修の参加数の23人(累計)と比較すると、令和2年度は実績が下がった。これは、新型コロナウイルスの影響で、研修等が中止、延期になったことが原因である。	C: 令和元年度より低い成果だった	新型コロナウイルスに対応した研修方法もある程度確立され始めていることから、今後は研修参加回数がある程度改善すると考えられる。

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和2年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和2年度の担当課評価	カ) 令和3年度の実施方針
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討										
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	社会教育委員の会に事業評価方法の検討について意見を求めており、令和3年4月に意見書として提出される予定となっている。	具体的な評価方法の検討に入ることができた。	社会教育委員からは、単年度評価の評価項目についても、改善が必要との声があった。	令和2年度は、社会教育委員の会に意見を求めているところである。	B: 令和元年度並みの成果であった	社会教育委員の会から提出される意見書を受け、中間評価、最終評価の評価方法を検討する。